

今までの授業

- ① 知識・技能
【1・2年】
 ・クラスルームを活用して、視覚的に理解させかつ、ワークブックなどを用いて、知識の定着を図る。
【3年】
 ・自作プリントを用いて知識の定着を図る。
 ・製作では、個々の特性にも配慮できるような教材を選択し、活動時間の確保に努める。
- ② 思考・判断・表現
【1・2年】
 ・テーマ毎に自分の考察・意見等を論理的に文章でまとめさせることで、思考・判断しそれを表現する力を育てる。また、日常の家庭生活に結び付け、一人一人が解決する必要がある課題を学習過程を通して具体的に意識的に取り入れる。
【3年】
 ・毎時間の授業での自分の感想等を記録することで、授業の中で生活に結び付けて改善策等を考える、思考・判断しそれを表現する力を育てる。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
【1・2年】
 ・提示した学習課題に高い意欲を示し、学習に対しても意欲的に取り組む姿勢が見られる。
【3年】
 ・プリント等は創意工夫のあるまとめ方ができる生徒も少なくない。
 ・個性を作品に表現しようとする意識も高く、こだわりをもって作品に取り組んでいる。

課題

- ① 知識・技能
【1・2年】
 ・定期考査等の結果を分析すると、この学習成果は定着していない。また、技能の習得が困難な生徒が一定数おり、それらの生徒の技能の向上が課題である
【3年】
 ・知識の定着を図るためにも、生活の中から課題を見出し、課題解決できる力を養う。
 ・生活に必要な基礎的な技能の習得を図るため、視覚教材を活用する。
- ② 思考・判断・表現
【1・2年】
 ・定期考査等の結果を分析すると、この学習成果が定着している。しかし、必要な学習課題を生徒本人が見つかる習慣をつけることが難しい。
【3年】
 ・与えられた課題に対してよく取り組んでいるが、思考力や表現の仕方に能力差がある。
 ・授業の中で学習記録（製作の手引き）を活用することで、思考・判断の能力、表現力を引き出していきたいが、活用が生徒によって不十分である。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
【1・2年】
 ・日々の家庭生活経験に個人差があり、生徒毎に合った学習課題の選択が課題である。
【3年】
 ・課題解決に向けて、限られた時間の中で粘り強く取り組む姿勢を育てたい。

授業改善の具体的な方策

第1学年
【引き続き重点的に取り組むこと】
 ・生徒に身につけさせたい資質や能力を明確にする。
 ・ICTを教具としてだけでなく、文房具として活用していく。
 ・多様な発達に合わせて、能力・技能・適性、興味・関心・価値、心情・行動などに配慮し、自主性を育てる

【授業の一部または全部を改善すること】
 ・生徒が、自分で自己の技術的・知識的な課題が解決できるように毎テーマごとに『フォーム』を製作し、即時にフィードバックをして、自己の学習課題の解決に活かす。

第2学年
【引き続き重点的に取り組むこと】
 ・生徒に身につけさせたい資質や能力を明確にする。
 ・ICTを教具としてだけでなく、文房具として活用していく。
 ・多様な能力・技能・適性、興味・関心・価値、心情・行動などに配慮し、既に持っている自主性を重視する。

【授業の一部または全部を改善すること】
 ・生徒が、自分で自己の技術的・知識的な課題が解決できるように毎テーマごとに『フォーム』を製作し、即時にフィードバックをして、自己の学習課題の解決に活かす。
 ・共働的な実技になるため、個の特性を活かせる自宅振り返り学習を求める

第3学年
【引き続き重点的に取り組むこと】
 ・既習内容を実際の生活に活用できるよう、知識と技能の習得を目指す。
 ・製作を通して創意工夫を向上させ、学習意欲と自信につなげたい。

【授業の一部または全部を改善すること】
 ・生徒がより具体的に課題に対して自己の考えを持ち、表現し解決できるよう、身近な場面から課題を設定できるよう心掛ける。
 ・技能面では、苦手意識をなくすため、作品見本や段階標本等の視覚教材を工夫し、活用する。